

【研究主題】ふるさとのよさを理解し愛着を深める教育活動の実践

【副題】アウトプットを主眼においたカリキュラム・マネジメント

【学校名】北秋田市立義務教育学校阿仁学園

【役職・氏名】校長 小林 陽介

## 1 はじめに

本校は、令和5年4月に義務教育学校として小学校2校と中学校1校が統合した学校である。1年生から9年生までの全校児童生徒数59人の小規模校であり、1・2年生と5・6年生は複式学級である。

令和5年度は、前期課程（1～6年生）と後期課程（7～9年生）が別々の校舎で生活しながら可能な範囲で活動を共にしてきた。令和6年度からは、新校舎で9学年が共に生活しており、「地域の学校」として特色ある教育活動を展開すべく研究を進めている。

## 2 研究の目的

本校が位置する阿仁地区は、少子高齢化と過疎化の影響で児童生徒数が激減し、5年後には、児童生徒数が40人程度になると予想されている。阿仁地区唯一の学校である本校への期待は大きく、地域との関わりの中でふるさとへの愛着や誇りをもち、地域社会を支えていこうとする人材の育成が求められている。

## 3 研究の概要

本研究は、教育活動におけるアウトプットの重要性を明確にした上で、アウトプットに主眼をおいたカリキュラムを編成し、その実践・検証・改善を通して、ふるさと教育の充実を図るものである。

### (1) インプットとアウトプット

本研究では、教育活動におけるインプットとアウトプットを次のように整理し、研究を進める。

- ・インプット…「読む」「聞く」「体験する」
- ・アウトプット…「話す」「書く」「行動する」

### (2) アウトプットの意義

- ・アウトプットすることにより思考が整理され、理解が確かなものになる。【ふるさとのよさの理解】
- ・アウトプットが地域に影響を与え、その反応（感謝、賞賛等）が子どもたちに返ってくことで、ふるさとへの愛着が深まる。【ふるさとへの愛着】

### (3) 本研究におけるカリキュラム・マネジメント

- ① 教科横断的な視点及び教育課程全体で行う。

- ② 地域の人的・物的資源を有効に活用する。

- ③ 保護者や地域の声を教育の質の向上に生かす。

## 4 研究の仮説

アウトプットに主眼をおいた教育活動を展開し、地域の反応が子どもたちに届くサイクルを構築することにより、児童生徒がふるさとのよさを理解し愛着を深めることができるだろう。



## 5 アウトプットを主眼においた活動の実際

### (1) 各教科

#### ① 美術科

ビジュアルツールキット「CANVA」を使って地域の魅力を宣伝する観光ポスターを作成し、各事業所で掲示していただいている。ポスターを見た方々の声、SNSでの反応を集会等で子どもたちに紹介している。



図1 観光ポスター

#### ② 体育科・保健体育科

高橋優「秋田の行事」の踊りを練習し、体育祭や学園祭、阿仁の花火大会などで披露している。その際は、保護者や地域の方々にも「スコップ三味線」で参加していただき、交流を深めている。



図2 「秋田の行事」の様子

#### ③ 技術科×総合的な学習の時間

技術科では「Life is Tech! Lesson」という教材を使い、パン屋さんのWebサイトを制作しながらプログラミングを学習している。その上で、総合的な



図3 Webサイトの編集画面

学習の時間に、パン屋さんのWebサイトのコードを書き換え、阿仁を紹介するWebサイトにアレンジする教科横断的な学びを展開している。

④ 家庭科

阿仁に伝わる伝統料理「けの汁」について調べ、地域の方々の御指導の下、実際に作っている。その際は、他学年や先生方にもふるまい、「美味しいね」が本人たちに返ってくるようにしている。

⑤ 書道パフォーマンス

ふるさとへの思いを一人1～2文字ずつ毛筆で書き上げる全校共同作品である。国語科で身に付けた書写の力と図工・美術科で身に付けたデザイン力をかけ合わせて制作する教科横断的な活動である。作品は学園祭で公開し、好評を博している。



図4 完成した書道パフォーマンス作品と全校児童生徒

⑤ 道徳科

本校道徳教育の重点は「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度（＝愛郷心）」と「よりよい学校生活、集団活動の充実（＝愛校心）」の二つの「愛」である。この二つについては、「語り合う会」という全校道徳を実施している。これは、テーマを設定し、自由に思いを語り合う活動である。令和5年度は、7月に地域活性化のアイデアを語り合った（愛郷心）。12月には「阿仁学園をよりよい学校に」のテーマで語り合った（愛校心）。保護者や地域の方にも入ってもらい、その声が届くようにしている。



図5 語り合う会の様子

(2) 総合的な学習の時間

① クロモジ茶販売

3・4年生が地域のマタギと共にクロモジの伐採やクロモジ茶づくりを体験するとともに、自分たちでパッケージを作成し、販売活動を行っている。販売・接客というアウトプットには次のような教育効果がある。



図6 道の駅で販売する児童

- ・お客さんから「美味しい」「すごいね」という反応が返ってくるため、誇りが高まる。
- ・お客さんにクロモジ茶づくりのことを自分の言葉で説明することにより、これまでやってきたことの意味を自覚できるようになる。

② 阿仁観光ガイド

5・6年生は、阿仁の歴史や文化などを調べ、まちあるきをしながら観光ガイドを行っている。今年度は、他校の児童や大学生を招いて行う予定である。この活動も、「すごいね」「ありがとう」といった反応が返ってくるため、ふるさとへの誇りが高まるという教育効果がある。

③ 内陸線PR動画制作

7～9年生は、東京オリンピック開会式でピクトグラムを演じたパフォーマー「GABEZ(ガベジ)\*」と共に阿仁合駅、比立内駅、阿仁マタギ駅の魅力をPRする動画を制作した。動画はYouTubeで公開されるため、多様な反応が寄せられる。\* GABEZのMASAさんは阿仁出身



図7 PR動画撮影の様子

④ 産学連携共創カリキュラム

本校とJR東日本企画、一般社団法人秋田犬ツーリズムが連携して商品開発等を行うカリキュラムを立ち上げた。今年度は、本校生徒が昨年度提案した「阿仁ガチャ（阿仁の特産品等をガチャにして販売）」の商品化に向けて活動する。

⑤ 凝縮ポートフォリオ

本校では自然体験、ボランティア活動といった体験活動を重視し、そこでの学びをポートフォリオとして蓄積している。その1年分のポートフォリオをA4版1枚に再構築する凝縮ポートフォリオを作成し、成長を自覚できるようにしている。

(3) 朝活動

金曜日の朝活動の時間は、「きらりの日」とし、北秋田市郷土資料集「きらり☆きたあきた」を活用した学習を行っている。その際、「読む」というインプットで留まらず、アウトプットに繋がるような活動をしている。



図8 郷土資料集の表紙

① ふるさとクイズ

郷土資料集を活用してクイズを作成し、出題し合う活動である。ねらいは次のとおりである。



- ・クイズには「正解」が必要なため、正しく読み取ろうとする。
- ・クイズの出題を通して、個人の知識を全体で共有できる。
- ・出題後に他者からの反応がある。



図9 朝のクイズ発表

② 「きらり☆きたあきた」プレゼン

郷土資料集を基にプレゼンを作成し、発表する活動である。プレゼンは写真やキーワードなど少ない情報量で構成する。このプレゼンで説明するには、脈絡を自分の言葉で語れなくてはならないため、事実の暗記ではなく、価値や魅力といった「意味」の理解に繋がる。



図10 プレゼンする生徒

③ 阿仁かるたづくり

郷土資料集を活用して、かるたを作る活動である。この活動には次のようなメリットがある。

- ・低学年でも取り組みやすく、「協働」できる。
- ・完成後、かるた遊びを通して学びが続く。
- ・ふるさとを巻き込んだ活動ができる。2年生はポストを設置し、他学年、先生、保護者、地域からアイデアを募った。



図11 完成したかるた

④ きらり☆きたあきた検定

QRコードを読み取ると、Microsoft Formsで作成したふるさと問題が出題され、自動採点も行う。このシステムのメリットは次のとおりである。

- ・正解すると自信が深まり、意欲も高まる。
- ・不正解でも、「実はよく分かっていなかったんだ」という気付きに繋がる。
- ・いつでもどこでも何度でもできる。親子で取り組むこともできる。

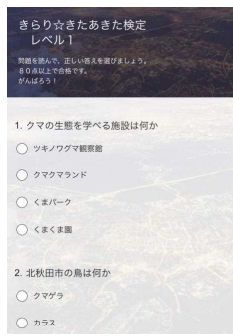


図11 スマホの画面

(4) 長期休業中の活動

① 秋田活性化中学生選手権

夏休みに5名の生徒が地元スキー場の活性化策を考え秋田活性化中学生選手権で発表し、最優秀賞を獲得した。また、同プレゼンを学期末PTA、市教育センター発表会、教育視察などで発表した。来場者に



図12 秋田魁新報の記事から

は感想を書いていただき、生徒に紹介している。

② 全校フォトコンテスト「夏休み 私の1枚」

自宅に持ち帰ったタブレット端末で好きな風景などを撮影し、タイトルを付けて提出することを夏休みの課題としている。それを全校で見合ったり、地域の方々にも公開したりすることで、「反応」が返ってくるようにしている。

③ 地域行事への参加

阿仁の花火大会のアトラクションにダンスや太鼓演奏で参加している。保護者や先生、地域の方々と共に演じ、大勢の見物客から盛大な拍手をいただいている。



図13 阿仁花火大会アトラクション

6 「反応」を子どもたちに届ける手立て

(1) メッセージカレンダー

体育祭、学園祭などの行事では、参加した保護者や地域の方々に感想を書いていただいている。それら1枚1枚をA3版に拡大し、日めくりカレンダー方式で掲示している。地域住民一人一人の感謝や激励の声をダイレクトに子どもたちに伝えることができるというメリットがある。

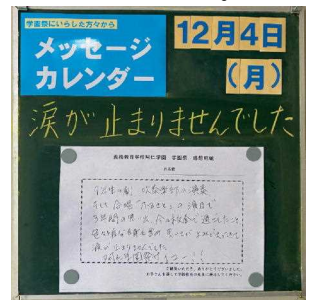


図14 学園祭メッセージカレンダー

(2) みんなでお見送り

学園祭など各種発表会の後は児童生徒が通路に並んで見送りをしている。そこで、地域の方々にはあたたかい言葉をかけてくださり、子どもたちは、感謝の思いを伝える。そういう直接交流ができる空間づくりを大切にしている。



図15 学園祭後のお見送り

(3) 集会での紹介

集会での「校長先生のお話」では、地域の方々との会話や保護者の声をプレゼンにして紹介している。



図16 集会で保護者の声を紹介

(4) 学校報「特別号」

体育祭や学校祭への感想は学校報「特別号」に掲載して阿仁地区全戸に配布している。地域からは、「会話のきっかけになる」という声が届いている。

## (5) 「体験から生まれた言葉」カレンダー

前述した凝縮ポートフォリオには、生徒の学びが凝縮されている。その一人一人の言葉をカレンダー形式で掲示し、みんなで共有できるようにしている。

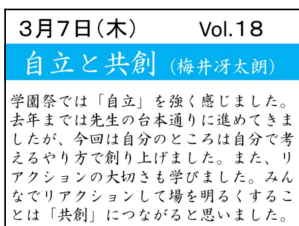
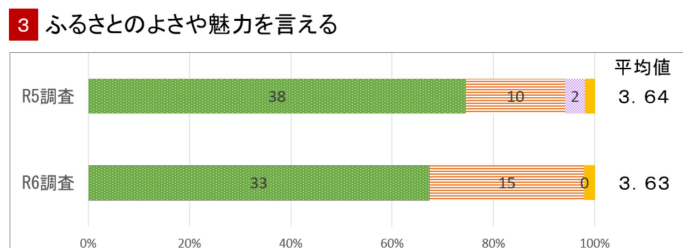
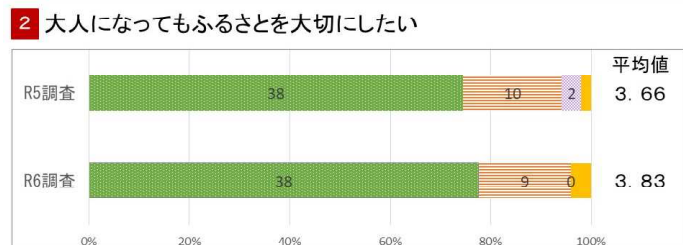
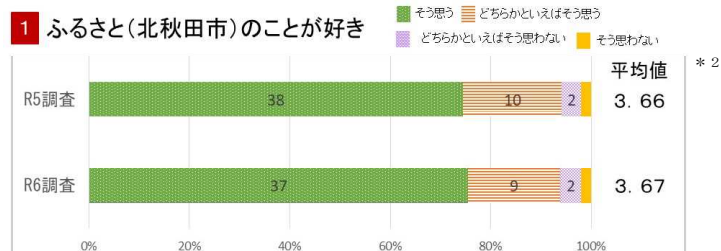


図16 体験から生まれた言葉を掲示

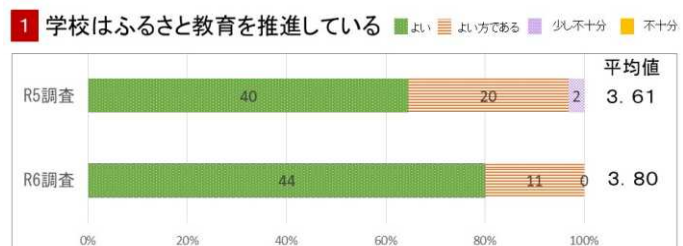
## 7 検証と考察

### (1) 児童生徒への調査\*1



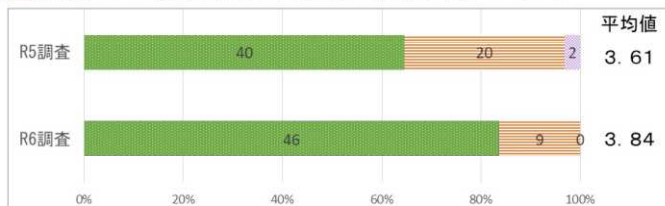
- いずれも肯定的な回答の割合が90%を超えている。その中でも「そう思う」の割合が高い。
- 質問1と質問2は相関性が高いと考えられる。
- 質問3は肯定的な回答の割合は微増しているが「そう思う」の割合は微減している。

### (2) 保護者からの評価\*3



- 令和6年度は、肯定的な回答の割合が100%である。特に「よい」の割合が大幅に上昇しており、ふるさと教育に対する理解と信頼の高まりが読み取れる。

### 2 学校からの情報発信は学校生活の把握に役立っている



- 学校からの情報発信を保護者は高く評価している。
- (3) 地域からの評価 (令和5年2月学校運営協議会)  
ふるさと教育の評価：4 (4段階評価)

#### 学校運営協議会の委員から

- 花火大会を盛り上げる活動や除雪ボランティアなど、地域に出でがんばってくれることがとてもありがたい。
- 四季折々の活動を展開し、子どもたちの「愛」を育てていることが伝わってくる。

- 児童生徒が地域に出で、地域の方々と協働していることが高い評価に繋がっていると考えられる。

## 8 成果と課題

### <成果>

- ふるさとが「好き」という現在の思いと、「大人になっても大切にしたい」という未来への思いが両立している。このことから、児童生徒のふるさとへの「愛着」は深まっていると捉えられる。
- 児童生徒だけでなく、保護者、地域を含めた三者の評価が高い。子どもたちの活動と保護者や地域の声を「見える化」した成果であると捉えている。

### <課題>

- 「ふるさとのよさや魅力を言える」の肯定的回答の割合が高くなっているのに対し「そう思う」が低下している。ふるさとのよさは「理解」しているが、その深さが十分ではないと考えられるため、「感動体験を通じた理解」の充実を図りたい。

## 9 おわりに

本研究はアウトプットの意義に着目し、それを機能させることによる教育的効果を追究してきた。今後も保護者や地域からの「いいね」を子どもたちに届け、「ふるさとっていいね」という思いを育てていきたい。

\*1 北秋田市教育委員会「ふるさとアンケート」から  
R5調査は11月、R6調査は5月に、本校3～9年生を対象に実施  
\*2 平均値は、4段階評価のよい方から4,3,2,1として平均を算出したもの  
\*3 阿仁学園「保護者アンケート」から (R5, R6とも7月実施)